

益城町「あかりまつり」で温かい飲料を無料提供





11月19日、熊本県電機商工組合青年部が主催し、益城町に設置されたテクノ仮設団地の住民の皆さまを対象にしたイベント「あかりまつり」が開催されました。キリンビールマーケティング株式会社熊本支社では、同イベントに協力し、キリンビバレッジの「生茶」「FIRE」「午後の紅茶」など5種類、約200本を来場者に無料提供しました。

2016年11月19日(益城町テクノ仮設団地内集会所、テクノ中央緑地公園・北側広場)

心と身体の元気

「あかりまつり」は、主催の熊本県電機商工組合青年部が、「不安な生活を送る被災者に"あかり"を通して温もりや安心を感じてほしい」と企画したものです。第 1 部では竹あかり & 三角とうろう作りのワークショップや絵本の読み聞かせなどのほか、家電のプロによる家電の困りでと無料相談コーナーも開設されました。また、地元で活動するまちづくり団体「益城だいすきプロジェクト きままに」が主催する「みんなで秋まつり」も同時開催されました。

第2部では、サプライズゲストとして「くまモン」が登場し、来場者とともにくまモン体操を踊ったほか、竹あかりの点 灯やショートフィルム上映会などが行われました。屋外でのイベントで、日没とともに徐々に肌寒さを感じるようになると、 会場を訪れた住民の皆さまは次々と飲料提供のために準備されたテントに列を作り、お好みの飲料を手にしていかれまし た。





コメント①

キリンビール株式会社 熊本支社長 麻生 芳彦

今回、キリンビールマーケティング株式会社熊本支社として、初めて仮設団地でのイベントのお手伝いをさせていただきました。子どもたちもたくさん足を運んでくれた中で、熊本地震の(子どもたちの精神面への)影響も心配しましたが、はつらつとした笑顔を見ることができ、こちらも元気をもらえました。こうした地域の皆さまと直接触れ合う場は、私たちにとっても、とても良い機会になります。ささやかではありますが、弊社の商品を通して、仮設団地の皆さまに穏やかなひと時を過ごしてもらえればと思います。



コメント2

キリンビバレッジ株式会社 九州支社 営業担当 部長代理 佐藤 太

熊本地震から7カ月以上が経過しました。キリングループでは、発災直後の物資支援から、その後の県内各市町村の復旧・復興に対する義援金の拠出など、さまざまな活動に取り組んできました。そうした中で、このような地域の手作りのイベントで声をかけていただけたことに感謝しています。こうした被災地域の住民の皆さまが元気になれるイベントが、今後、同じく大きな被害を受けた西原村や南阿蘇村でも行われるようになり、今回のように弊社商品を通じてお手伝いできればうれしく思います。







コメント3

益城だいすきプロジェクト きままに 代表 吉村 静代 様

「益城だいすきプロジェクト きままに」では、熊本地震後の益城中央小学校での避難生活において 1 日でも早く「日常」を取り戻すため、「できる人ができることをやる」をモットーに、行政やボランティアだけに頼らない自主的な避難所運営を通じて、コミュニティーづくりを行いました。そこでの活動がテクノ仮設団地への入居後にも活かされています。その一つが、「みんなで秋まつり」のように人と人が外に出て、会う場を作ること。また、今回の「あかりまつり」とのコラボなど、多くの方とのつながりができることも、地域づくり活動を行う上で喜びを感じる瞬間です。



コメント(4)

熊本県電機商工組合 青年部部長 石原 健一郎 様

私たちは、"まちのでんき屋さん"の集まりです。熊本地震は前震、本震ともに夜発生し、その後停電などもあって、被災した方々は不安な夜を過ごされたことと思います。特に、子どもたちの中には「夜が怖い」「明かりが点いていないと眠れない」という子もいたようです。そうした子どもたちに、私たちが得意とする電機や明かりを通じて、「明かりがあれば夜も楽しい、安心だよ」と伝えたくて「あかりまつり」を企画しました。また、趣旨に賛同していただいた松下政経塾にも運営などで協力してもらい、ショートフィルムの上映会も実現しました。他にも、イベントに必要な資材などをイオンさんや全国電機商業組合連合会から提供いただいたことにも感謝申し上げます。







コメント⑤

公益財団法人 松下政経塾 第36期生 深作 光暉へスス 様

熊本地震発生後、ボランティア活動などで十数回、熊本に足を運んでいます。緊急を要する支援がひと段落してからは、被災地を回り新たなニーズの掘り起こしを行いながら、「何ができるか」を模索していました。「あかりまつり」も、そうしたニーズの一つで、企画した熊本県電機商工組合の石原さんとの話の中から生まれたイベントです。震災から少し時間が経ち、地域の方々がコミュニケーションを取り合う場を設ける必要性を感じていたので、そこに携わることができてよかったです。熊本の復興は、今後5年、10年と続いていくと思うので、これからもネガティブをポジティブに変えていくお手伝いができればと思います。



